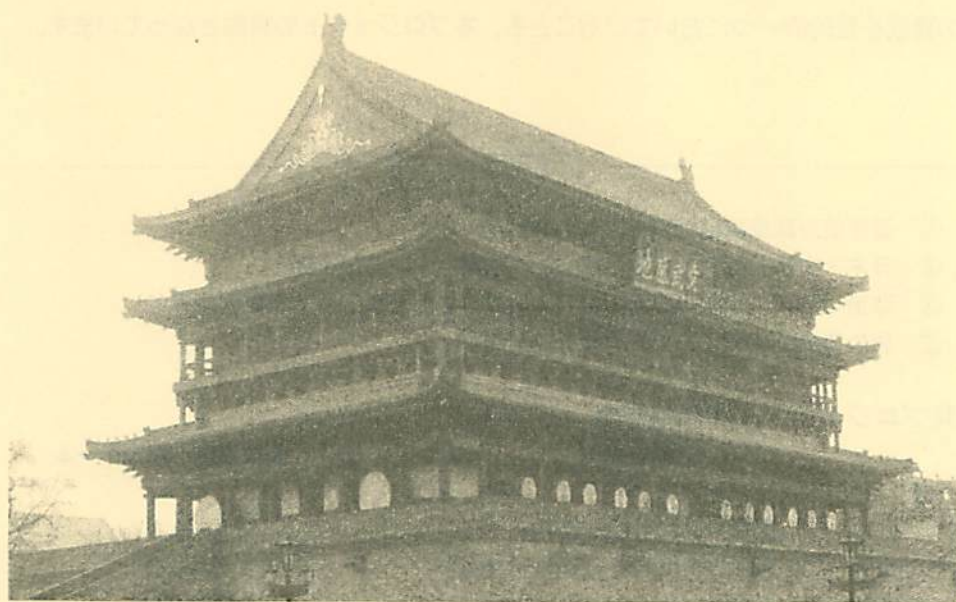


東アジア世界史研究センター 平成20年度 国際シンポジウム

古代東アジア世界と 日本・新羅の留学生



西安 鼓楼

文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業（オープン・リサーチ・センター整備事業）

「古代東アジア世界史と留学生」

日時：平成20年11月22日（土）10:00～18:00

会場：専修大学神田校舎7号館3階731教室

東アジア世界史研究センターの研究計画〈概要〉

【研究目的】

これまでの東アジア世界を対象とした歴史研究プロジェクトは、壮大なテーマを掲げて取り組んできましたが、本プロジェクトは、追求すべきテーマを絞り込み、古代東アジア世界を流動した人々との対比を視野に入れた上で、東アジアの国々が、様々な文化・文物の流入を期待し、それを直接に担った「留学生」に焦点を絞り、テーマを設定しました。

先進文明国に位置する中国への留学生は、文化・文物を「移植」・「媒介」した存在ではありますが、その果たした歴史的な意義は、十分に明らかにされていません。

本プロジェクトは、本学大学院が発見に大きな役割を果たした「遣唐使井真成墓誌」で培われました中国西北大学大学院との共同研究（その成果の一部は『遣唐使の見た中国と日本』朝日新聞社、2005年、として刊行）を基礎として、1. 隋・唐代の中国を訪れた東アジアからの留学生の全貌を明らかにした上で、2. 古代東アジアの国々への影響を解明するものであります。これは、文物の「媒介者」の歴史的意義を問う試みであり、グローバル化した現代において見失われがちな「媒介者」の正当な位置づけとその果たしている重要性を確認させる点において、現代的な意義を有する研究といえます。また、研究計画を遂行する中で、日本人に限定しないで、東アジア世界の若手研究者の育成を目的の一つにしていることも、本プロジェクトの特徴となっています。

【研究テーマ】

- ① 遣唐使井真成墓誌関係史資料の研究
- ② 日本・中国・朝鮮の「留学生」史・資料についての研究
- ③ 政治・制度・文化・思想の接触と受容からみた東アジア世界の研究
- ④ 物の移動からみた東アジア世界の研究

・研究プロジェクトの参加研究者

	研究課題	参加調査・研究チーム
専修大学		
荒木 敏夫	東アジアにおける政治史	①・③*
矢野 建一	東アジアにおける留学生の位置	①*・③
亀井 明德	東アジア世界と中国・日本	③・④
土生田純之	東アジア世界と朝鮮・日本	③・④*
飯尾 秀幸	律令制度と東アジア世界史	②*・③
内藤 雅雄	東アジア世界と南アジア世界の交流	③・④
田中 正敬	東アジア世界のなかの朝鮮半島	③・④
松原 朗	東アジア世界における文化的人的交流	②・③
土屋 昌明	東アジア世界における文化的人的交流	②・③
巖 基珠	東アジア世界における文化的人的交流	②・③
*は各研究テーマのチームリーダー		
西北大学（中国）		
王 建新	東アジア世界と中国	③・④
王 維坤	東アジア世界と中国	③・④
リサーチ・アシスタント		
小笠原 強	専修大学大学院文学研究科博士後期課程（中国近現代史）	
窪田 藍	専修大学大学院文学研究科博士後期課程（日本古代史）	
福島 大我	専修大学大学院文学研究科博士後期課程（中国古代史）	

平成20年度国際シンポジウム テーマ

古代東アジア世界と日本・新羅の留学生

プログラム

趣旨説明

10:00~10:20

荒木 敏夫

(東アジア世界史研究センター代表/専修大学教授)

講演

10:20~11:50

葉 國良 (国立台湾大学教授)

「二重証拠法からみた
『日本』国号の中国における出現」

通訳: 丸井 憲

11:50~12:20

質疑応答

12:20~13:20

休憩

13:20~14:20

権 恵永 (釜山外国語大学校教授)

「8、9世紀における新羅人の
‘西学’活動」

通訳: 吳 吉煥

14:20~15:20

王 建新 (東アジア世界史研究センター客員研究員/
西北大学文博学院教授)

「外国人に対する唐王朝の政策」

15:20~15:40

休憩

15:40~16:40

大平 聡 (宮城学院女子大学教授)

「留学生・僧による典籍・仏書の
日本将来—吉備真備・玄昉・審詳—」

16:40~16:50

休憩

16:50~18:00

討論

司会・進行

矢野 建一 (東アジア世界史研究センター研究員/専修大学教授)

■ 講師紹介

- **荒木 敏夫 (あらかし としお)** 専修大学文学部教授
東京都立大学大学院人文科学研究科史学専攻 (博士課程) 退学
【著書・論文】『可能性としての女帝—女帝と王権—』(青木書店、1999年) 『日本古代王権の研究』(吉川弘文館、2006年) 『日本の女性天皇』(小学館、2006年)
- **葉 國良 (よう こくりょう)** 国立台湾大学教授
国立台湾大学 (中国文学系) 卒業、同大学院修了 (文学博士)
【著書・論文】『宋人疑經改經考』(臺灣大學文史叢刊、1980年) 『宋代金石學研究』(博士論文、1983年、未正式出版) 『石學叢探』(大安出版社、1989年) 『石學續探』(大安出版社、1999年) 『古代禮制與風俗』(臺灣書店、1997年) 『經學側論』(國立清華大學出版社、2005年) 『經學通論』(共著、大安出版社、2005年修訂版) 『漢族成年禮及其相關問題研究』(共著、大安出版社、2004年)
- **権 惠永 (クオン ドクヨン)** 釜山外国語大学校教授
韓国精神文化研究院 (現 韓国学中央研究院) 韓国学大学院修了 (文学博士)
【著書・論文】『古代韓中外交史—遣唐使研究』(一潮閣、1997年) 『訳註 三国史記 (1)~(5)』(共訳、韓国精神文化研究院、1996~1998年) 『韓国史の国際環境と民族文化』(共著、景仁文化社、1997年) 『韓国古代金石文総合索引』(学研文化社、2002年) 『古代からの通信』(共著、푸른역사、2004年) 『在唐新羅人社会研究』(一潮閣、2005年)
- **王 建新 (おう けんしん)** 西北大学文博学院教授
中国西北大学考古学専攻卒業、奈良教育大学大学院教育学研究科修了
【著書・論文】『日本古代都城营造の際なぜ大きな古墳を潰したのか』(『古代学研究』、1989年) 『東北アジアの青銅器文化』(同成社、1999年) 『慈善寺与麟溪橋—古代仏教造像窟龕調査研究報告』(共著、科学出版社、2003年)
- **大平 聡 (おおひら さとし)** 宮城学院女子大学学芸学部人間文化学科教授
東京大学大学院人文科学研究科国史学専門課程博士課程単位取得退学
【著書・論文】『奈良時代の詔書と宣命』(『奈良平安時代史研究』上巻、吉川弘文館、1984年) 『日本古代王権継承試論』(『歴史評論』429号、1986年) 『天平勝宝六年の遣唐使と五月一日経』(『日本律令制論集』上巻、吉川弘文館、1993年) 『日本古代の文書行政と音声言語』(藤田勝久他編『古代東アジアの情報伝達』、汲古書院、2008年)

■ 司会紹介

- **矢野 建一 (やの けんいち)** 専修大学文学部教授
立教大学大学院文学研究科博士課程修了
【著書・論文】『遣唐使の見た中国と日本』(共著、朝日新聞社、2005年) 『長安都市文化と朝鮮・日本』(共編著、汲古書院、2007年) 『長安都市文化と朝鮮・日本』(共編著、三秦出版社、2008年) 『井真成研究—その後の研究動向によせて—』(『人文科学年報』37号、専修大学人文科学研究所、2007年) 『中国における入唐留学生研究の動向』(『人文科学年報』38号、専修大学人文科学研究所、2008年) 『遣唐使の派遣と春日山祭祀』(『東アジア世界史研究センター年報』1号、2008年)

■ 通訳紹介

- **丸井 憲 (まるい けん)** 専修大学経営学部兼任講師
北京大学中国語言文学系比較文学研究所博士課程修了 (文学博士)
【著書・論文】『朱子絶句全訳注第四冊』(共著、汲古書院、2008年)
- **吳 吉煥 (オー キルハン)** 立教大学兼任講師
東京都立大学人文科学研究科博士課程単位取得退学
【著書・論文】『百濟熊津時代の領域支配体制について—「二二檀魯」と「地名王・侯」を中心に—』(『朝鮮学報』第189号、朝鮮学会、2003年10月) 『『広開土王碑文』「守墓人烟戸」条の再検討—「新来韓穢」三六地域を中心に—』(『古代文化』57巻第12号、(財)古代学協会、2005年12月) 『『広開土王碑文』紀年記事にみえる広開土王の軍事行動』(『メトロポリタン史学』第2号、メトロポリタン史学会、2006年12月)

東アジア世界史研究センター

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

TEL/044-911-1283 FAX/044-911-1348

E-mail: east-asia@isc.senshu-u.ac.jp

主催: 専修大学社会知性開発研究センター/東アジア世界史研究センター